



やるきほんききさき 木佐木

神奈川県議会議員

日本共産党

2023.7.12

木佐木ただまさ news

発行：党横浜北東地区委員会

横浜市鶴見区潮田 3-147-6

TEL：045-511-1021

Profile

- ▶1984年 山梨県出身
- ▶鶴見区馬場在住
- ▶神奈川大学法学部卒
- ▶よこはま健康友の会会長
- ▶横浜東民商顧問

4年ぶりの本会議討論

7月11日 県議会最終日の討論に立ちました。
2回に分けて討論の中身をご紹介します。

結婚の多様性を認めよ！

まず、補正予算についてです。結婚支援推進事業費として、マッチングアプリや「恋カナ！プロジェクト」を連携させる取り組みが計上されています。個人の選択が多様化する中で行政が結婚することを煽り立てることは、結婚を望まない選択をする方や望んでも結婚できない状況の方を傷つけることになりかねません。行政が行うべき事業の方向性は、結婚を望む人たちの願いを阻んでいる、働き方の問題や低賃金、教育費の高負担などの現状を解消していくことにあると考えています。行政が行うべき結婚支援の在り方をもう一度見直すことが必要です。

加えて、恋カナでマッチングし成婚に至った二人に祝い金などで最大8万円の支給や結婚新生活支援事業の対象が婚姻届けを提出したカップルに限られるという点は、ジェンダー主流化を標榜している黒岩県政の出足を挫くものではないでしょうか。どのような家族を築いていくのか、子どもを産むのか産まないのかそれぞれに様々な判断があるはずですが、まして、事実婚や同性カップルであっても出産や里親など子どもを育てることは可能であり、法律婚の夫婦と区別する必然性はどこにもありません。知事があれほど「ジェンダー主流化」と声高に言っていた議会で提案された事業が、結婚の多様性を認めない中身になっているとは、なんという皮肉でしょうか。県内33市町村すべてで同性パートナーシップ制度が導入された



本会議最終日で反対討論に立つ木佐木ただまさ

事実をしかと受け止め、県として、すべての人の人生の門出を応援するためにも、祝い金や結婚新生活支援事業の対象を事実婚や同性カップルに広げるべきであり、県の姿勢を明確にしていくためにも、神奈川県として同性パートナーシップ条例制定を強く求めるものです。

知事に相応しい振る舞いを

次に定県第56号議案 知事給与の特例に関する条例についてです。

中井やまゆり園での衝撃的な事案を受けて、県政を統括する知事としての責任を明らかにするため、知事給与の1か月分の一部を減額するというものです。金額については、知事がどれくらいの責任を感じているのかが表れるものと思いますが、過去の事例との比較やこの間の知事に起因した県政への信頼失墜などから考えれば、減額してそれで終わりとするべきではなく、知事ご自身の責任と向き合い続け全ての会派、すべての県民の声に真摯に耳を傾けること、神奈川県知事としてふさわしい振る舞いを要望いたします。